

アプリケーション重視のSE教育

富士通電算機専門学院 長浜正道

1. はじめに

過日、筆者が「戦略コンピュータ」（昨年11月号）の特集の中で「戦略SEへのアプローチ」として紹介したケース「アプリケーション重視の教育でSEの戦略的能力を強化」について、当研究会で発表したかどうかの呼びかけがあったので、不遜とは思いつつもこの機会に掲記記事で言い尽くせなかったことも含めて私自身の考え方を発表させて頂くことにした。以下レジュメで御容赦頂きたい。

当社が行っている「SE教育」は、その教育対象に着目すると次の2つのカテゴリーに分けることが出来る。

① 社内およびグループ企業のSEに対する教育

② 一般社会人や一般企業のSEに対する教育

それぞれ実施主体も異なっており、主として①は「システム本部教育事業部の教育部門」により、②は「本社機構の情報教育推進部」（富士通電算機専門学院）により行われている。

2. 社内およびグループ企業のSEに対する教育

「社内およびグループ企業のSEに対する教育」の体系は、図1～2に示すように、SEに求められるスキルを、SEの専門分野（役割）に応じた「SE基本技術」と「個別選択技術」とに分け、それをさらにSEのレベル（グレード）別に体系化するという二次元的形態をとっている。

また、この体系は詳細なレベルのスキルズインベントリースystemと連動している。

（以上の体系図は当社の公式な体系図ではなく、企業機密等を配慮して筆者が極力実態を反映出来るように作成したものであることとお断りしておく）

今回の発表テーマである「アプリケーション重視のSE教育」という観点からみた場合、この体系をどうとらえるかについては、別途口頭で筆者の考えを述べることにしたい。

3. 一般社会人や一般企業のSEに対する教育

前節で紹介した「社内およびグループ企業のSEに対する教育」に比して、こちらの教育は、ベンダー側のSEを対象を限定せず、むしろどちらかといえばユーザ側のSEを想定したもので、5日間程度の「短期セミナー」という形で行われている。（現在、「システム設計」、「要求分析技法」、「プロジェクト管理」の3講座が開設されている）

このセミナーでは、テクニカルな側面よりもシステム化の「考え型」を重視し、この種の一般的なコースに比べて上流工程に重点を置いて、特に「システムイメージ作成の考えかた」をよく認識することをひとつの重点目標にしている。

その意味では、これこそ「アプリケーション重視のSE教育」であると言えることが出来る。

4. 「アプリケーション重視のSE教育」のポイント

以下においては、前節の短期セミナー「システム設計」において、アプリケーション対応力をつけるために採用している考えかたの概要を紹介する。

このコースの日程と学習項目の概要は表1に示す通りである。

そこにおいては図3に示す「企業タイプによる企業特性の絞り込み」の考え方を強調している。

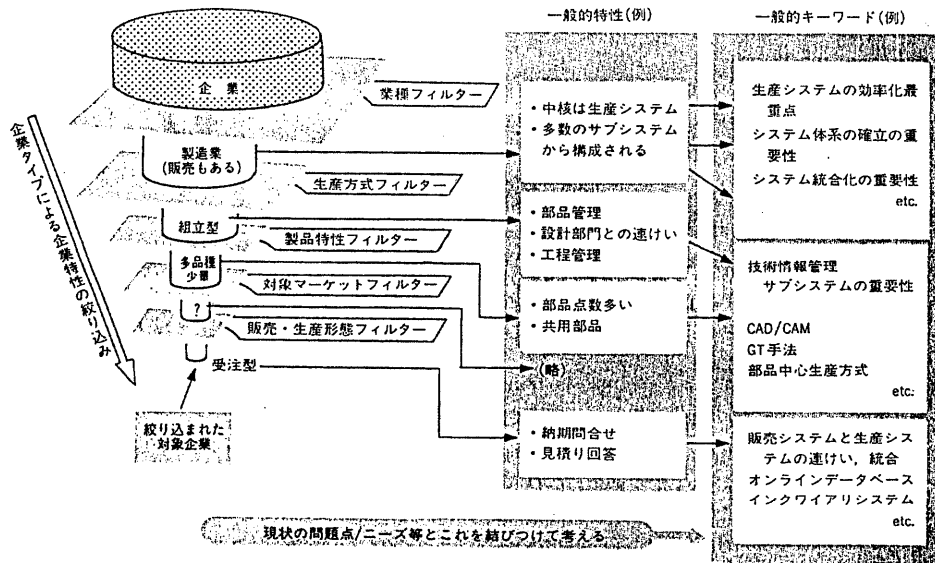
これについては口頭で概説する。

表1 「システム設計」講座の日程別

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
講義 ・システムライフサイクルとシステム設計 ・システム分析とシステムイメージ	講義 ・システム分析とシステムイメージ ・コード設計 ・入出力設計	講義 ・ファイル設計 ・プロセス設計 演習 ・総合演習Ⅰ	演習 ・総合演習Ⅰ ・結果発表 ・講評 演習 ・総合演習Ⅱ	演習 ・総合演習Ⅱ ・結果発表 ・講評 ・まとめ

1. 1の部分で戦略SE指向の強い内容になっている。

図3 戦略SEに役立つシステムイメージの展開方法(例) 抽象的イメージによるトータルシステム化



企業というものは、企業としての一般的特性とともに、企業タイプによってそれぞれ固有の特性を持っている。特定の企業について、その情報システムを考える場合、その企業タイプによる企業特性を明確にすることによって、情報化のポイントをクローズア

ップさせることができる。そのために「図3に示すような「フィルター」による企業特性の絞り込みである。この絞り込みによって抽出される「一般的キーワード」が情報化戦略を考える上での重要なヒントになる。このアプローチは戦略SEにとって非常に重要である。